



- 内 容
- ◆講演会「アジアの発展に役立つ原子力を考える」
  - ◆FNCAプロジェクトのトピックス
  - ◆第9回コーディネーター会合
  - ◆第2回「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」
  - ◆アジア原子力協力フォーラムとは

**講演会「アジアの発展に役立つ原子力を考える」 in 福井**  
2008年8月1日

講演会「アジアの発展に役立つ原子力を考える」が2008年8月1日、福井県の福井大学において文部科学省主催により開催された。本講演会では、FNCAに参画しているアジア諸国を代表してフィリピンよりアラバストロ科学技術大臣を招待し、我が国の近隣アジア諸国における原子力平和利用活動について理解を深めてもらえるよう、FNCA活動の成果を中心に3つのテーマについて講演を行った。当日は、約130名の聴衆が参加した。

高速増殖炉「もんじゅ」他多くの原子力発電所がある福井県を訪問できたことを大変嬉しく思うとの発言がなされた。



講演会会場風景



アラバストロ科学技術大臣（フィリピン）

<講演>

「アジアの中の日本」

町 末男（FNCA日本コーディネーター）

FNCAの活動の成果を通して原子力技術が参加国の社会・経済の発展、生活の向上に役立っている事例を中心に、現状と今後の展望についての紹介があった。

「アジアの豊かな農業を目指して」

中川 仁（農業生物資源研究所放射線育種場長）

放射線を利用した植物の突然変異育種活動の状況とその重要性について講演が行われた。FNCA放射線育種プロジェクトにおいて現在行われている研究活動の成果とその価値について紹介され、今後の放射線育種研究分野における展望について言及がなされた。

はじめに、主催者である文部科学省を代表し、櫻井大臣官房審議官が挨拶を行い、人口増加に伴うエネルギー需要の拡大等により、近年原子力発電の重要性が増大していることに言及した。引き続き、フィリピンのアラバストロ科学技術大臣からの挨拶が行われ、フィリピンでの国民の生活を豊かにするため、原子力技術分野を含め科学技術のさらなる発展に向けて努力していることが紹介されるとともに、

「切らないでがんを治す放射線治療」

辻井 博彦（放射線医学総合研究所理事）

アジア諸国における深刻ながん治療の現状や課題とともに放射線を利用した治療法が紹介され、現在行われているFNCAの研究活動における成果、及び今後の展望が述べられた。

<質疑応答>

講演の後、福井大学のアジア人留学生や各方面からの参加者を交えて質疑応答が行われた。参加者からは、原子力の平和利用におけるより正しい理解を広げるための方法や、放射線を利用して開発された農作物が人間に与える影響の有無など様々な質問が

よせられ、活発な意見交換が行われた。



アジアからの留学生との質疑応答

FNCAプロジェクトの新しい展開

2008年6月～11月にかけて、7プロジェクトのワークショップ・プロジェクトリーダー会合等が開催された。

| 活 動         |          | 日 程              | 場 所         |                                  |
|-------------|----------|------------------|-------------|----------------------------------|
| 研究炉利用       | 中性子放射化分析 | ワークショップ          | 10/16～10/20 | ベトナム・ダラト                         |
|             | 研究炉基盤技術  | ワークショップ          | 10/19～10/23 | ベトナム・ダラト                         |
| 農業利用        | 放射線育種    | ワークショップ          | 10/27～10/31 | ベトナム・ダラト                         |
|             |          | 専門家会合            | 6/30～7/3    | マレーシア・クアラルンプール                   |
| 原子力広報       |          | プロジェクト<br>リーダー会合 | 11/10～11/14 | 中国・北京                            |
| 放射線安全・廃棄物管理 |          | ワークショップ          | 11/3～11/7   | オーストラリア・シドニー                     |
|             |          | タスク活動            | 8/18～8/22   | インドネシア・ジャカルタ及び<br>マレーシア・クアラルンプール |
| 人材養成        |          | ワークショップ          | 11/2～11/4   | バングラデシュ・ダッカ                      |
| 工業利用        | 電子加速器利用  | ワークショップ          | 10/27～10/31 | 中国・上海                            |

研究炉利用 中性子放射化分析 ワークショップ (ベトナム・ダラト 2008年10月)

■ 鉱物探査への適用など、プロジェクトの新規活動が始まる

中性子放射化分析とは、分析対象物（試料）に中性子を照射して構成元素を放射化させ、その放射能およびエネルギーを測定して元素分析を行う手法であり、対象試料内に存在する複数の元素を一度に高感度分析出来るすぐれた長所を持っている。本プロジェクトは、この技術により大きな社会的経済的貢献が期待できる、「食品汚染モニタリング」、「環境汚染モニタリング」、さらに本年度から新たに「地球化学図作成と鉱物探査」を加えた3つのテーマについて、新たな計画の下、利用の促進を図ることを目標としている。

中性子放射化分析ワークショップが、ベトナムのダラトにおいて、2008年10月16日～20日の5日間に渡り開催された。オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ及びベトナムの10カ国から、計15名が参加した。

ワークショップでは、各国の中性子放射化分析活動の現状についての情報交換、各国によるテーマ選択、活動計画・目標等を中心とする議論が行われた。

食品汚染モニタリング

参加予定国：中国、韓国(主導国)、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム

米や鶏卵等の単一試料、或いは毎日の食生活で登場する複数の試料がまざった混合食品試料（例：米・鶏卵・ネギがまざった焼飯など）を対象とする提案がなされ、具体的実施計画は今後の議論により調整される予定である。



ワークショップの様子



ワークショップ参加者

テーマ、現時点での参加予定国及び今後の活動内容は、以下の通りである。

地球化学図作成と鉱物探査

参加予定国：オーストラリア（主導国）、日本、他  
 中性子放射化分析技術を用いて地表の元素分布を図面化し、人類にとって重要なニーズである「資源」の分布状態を把握する。参加国は今後、「資源」と関連する組織と十分に連携しながら、活動を行う予定である。

環境汚染モニタリング

参加予定国：バングラデシュ、中国、インドネシア、日本(主導国)、マレーシア、タイ、ベトナム

大気を対象とした今までの技術的蓄積の上で、河口、海岸の堆積物及び海洋堆積物に存在する汚染物質について、過去に遡った長期的な変動をモニタリングする計画である。



議論の様子

研究炉利用 研究炉基盤技術 ワークショップ (ベトナム・ダラト 2008年10月)

■プロジェクトの新テーマは「研究炉の安全運転のための安全解析技術の共有化」

研究炉基盤技術ワークショップが、ベトナムのダラトにおいて、2008年10月19日～23日の5日間に渡り開催された。バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、タイ及びベトナムの8カ国から、計13名が参加した。

本プロジェクトは本年度から「研究炉の安全運転のための安全解析技術の共有化」を新テーマとして活動を開始した。ワークショップでの課題は「研究炉の反応度事故 (RIA)、及び流量喪失事故 (LOFA) に係わる安全解析技術の共有化」である。

研究炉の効率的利用を促進するため、参加国内で、安全で安定した研究炉運転を確保するための安全解析技術の向上をプロジェクトの目的としている。

今回のワークショップでは、各国の研究炉における安全解析の現状についての情報交換を行った上で、定常炉心熱水力解析コードCOOLOD-N2の説明と各国でコードを利用する際の技術的課題について検討を行い、COOLOD-N2を対象とする技術基盤を強化した。また来年度EUREKA2/RR共有化の実実施計画、再来年度ワークショップの討議内容等の議論を行った。



ワークショップ参加者



研究炉制御盤の説明を受ける参加者

研究炉利用オープンセミナー

安全解析の共通計算コードとして以下の2つの我が国の計算コードが選ばれ、日本から各国に配付する事になった。

- (1) COOLOD-N2：定常炉心熱水力解析コード
- (2) EUREKA2/RR：核熱水力結合動特性解析コード

中性子放射化分析プロジェクトと研究炉基盤技術プロジェクトは10月20日にオープンセミナーを共同開催した。日本、オーストラリア、ベトナムにおける研究炉利用や原子力発電導入準備の現状等について講演が行われ、現地の研究機関、教育機関、官庁等から41名が参加した。講演の中で、町日本コーディネーターよりFNCA参加国における原子力発電所の設置状況が説明され、地球温暖化が危惧される中で、二酸化炭素を放出せず電力需要の増加に対応できる原子力発電の役割が強調された。



安全解析コードのインストールを行う様子



オープンセミナーの様子

農業利用 放射線育種 ワークショップ (ベトナム・ダラト 2008年10月)

■バナナ、ラン、及びイネの成果が議論される

放射線育種プロジェクトは、放射線を利用した作物の品種改良によって耐病性、耐虫性、耐旱ばつ性に優れた新品種を開発し、アジア地域の食糧の増産、作物の高品質化や病害虫防除への貢献を通じ、放射線利用を促進することを目的としている。現在、ラン、バナナ、イネの3種の作物に関する研究活動を進めている。

放射線育種ワークショップが、ベトナムのダラトにおいて、2008年10月27日～31日の5日間に渡り開催された。バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、マレーシア、フィリピン、タイ及びベトナムの8カ国から、計13名が参加した。

ワークショップでは、3種の作物の品種改良に関する活動の報告と議論を行った。また、初日にはオープンセミナーを開催し、ベトナム各地の官庁・研究所からの約45名の参加の下、中国、日本およびベトナムの育種研究に関連する専門家が、放射線育種研究の現状や成果について講演を行った。



輸出向けの花を生産する農園の見学

ラン耐虫性育種研究

共通の母材としてデントロビウム・ソニアという品種を用い、ランを食害するスリップスやハダニに強い新品種を開発を目指して、2009年度まで2年間の計画を延長し、研究を進めている。現在、日本との間でイオンビームを利用した品種改良研究を行っているマレーシアでは、スリップスへの耐虫性に関し有望な2つの系統が得られ、成果が挙げられていることが報告された。

バナナ耐病性育種研究

バナナに感染して枯死させる細菌やウイルスなどの病気に強い新品種を開発を目指している。6～7月にマレーシアで開催された専門家会合（後述）の結果を中心に、研究の成果や今後の方針について、議論を行った。

本サブプロジェクトは、本年度最終年度を迎えるが、各国より2010年までの継続が提案された。

イネ品質改良育種研究

各国のニーズに合わせた成分改変および収量性や耐塩性などの環境耐性に関する研究をテーマとしている。本ワークショップでは、各国より現在までの研究の進捗状況が報告され、プロテイン・フィチン酸・芳香性の含有量を評価する技術を標準化していくこと、さらにフィチン酸に関する評価方法はタイより提供されることなど、今後の具体的な将来計画が策定された。また、ベトナムの稲作農家への訪問も行った。



稲作農家への訪問

バナナ専門家会合

6月30日～7月3日にマレーシア・クアラルンプールでバナナ耐病性研究の参加国であるバングラデシュ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、ベトナムの5カ国の専門家による専門家会合が開催された。各国においてBBTV(バナナバンチートップウイルス)あるいはフザリウム、線虫に耐病性のある有望な変異種が得られており、今後さらに国内数カ所の試験地において実用的な品種としての特性を備えているかどうかの試験を行い、品種登録まで研究を進める。



バナナ専門家会合参加者

原子力広報 プロジェクトリーダー会合 (PLM) (中国・北京 2008年11月)

■各国共通の質問事項による「世論調査」の実施を検討

原子力広報プロジェクトでは、高まりつつある各国の原子力発電への関心に関連して、各国における広報活動を関係者で確認・共有し、より有効な広報活動のあり方を議論することを目的としている。



PLMの様子

原子力広報プロジェクトリーダー会合 (PLM) が、中国の北京において、11月10日～14日の5日間に渡り開催された。バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの8ヵ国及びIAEAから、計15名が参加した。

PLMでは、各国の原子力の広報活動の現状について報告が行われるとともに、各国の政府機関・企業が広報用に作成しているビデオ・ポスター・パンフレット・ノベルティについても紹介され、参加者間で活発な意見交換が行われた。

なお、PLM期間中にはオープンセミナーが開催され、中国の原子力発電の状況や日本の原子力広報の紹介が行われ、中国の政府関係者、メディア、企業等を含む約50名が参加した。同時に国際原子力機関 (IAEA) の広報の専門家によるトレーニングプログラム (人間がなぜ原子力を恐れるのかを説明する演習と、プログラム参加者を原子力発電導入を検討している国の関係者と想定したケーススタディ演習) も行われた。



IAEA トレーニングプログラムの様子

オープンセミナー参加者は北京市郊外にある中国原子能科学研究院 (CIAE) の高速実験炉を訪問した。参加者は炉の構造について説明を受け、中央制御室など視察した。

また、会合では各国で実施された世論調査の結果が報告され、それをもとに今後FNCAとして、各国共通の質問事項による世論調査を行うことが合意された。



オープンセミナーの様子



中国原子能科学研究院への訪問

放射線安全・廃棄物管理 ワークショップ (オーストラリア・シドニー 2008年11月)

■ 「放射線安全」をテーマに加えて第1回ワークショップを開催

放射線安全・廃棄物管理プロジェクトは、FNCA参加国間において放射線安全および放射性廃棄物管理に関する情報や経験により得られた知見を交換し共有することにより、アジア地域における原子力平和利用の安全性の向上に資することを目的としている。本プロジェクトは平成7年から実施している放射性廃棄物管理プロジェクトを改組して、今年度から新たな活動を開始した。



ワークショップ参加者

放射線安全・廃棄物管理ワークショップが、オーストラリアのシドニーにおいて、11月3日～7日の5日間に渡り開催された。オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、マレーシア、タイ、ベトナムの8カ国から、計13名が参加した。

ワークショップにおいて、オーストラリア、中国、インドネシア、日本、マレーシア、タイからは特に放射線従事者に対する放射線防護や放射線測定等の放射線安全に重点をおいた各国の現状や課題について、バングラデシュからは近年完成した廃棄物処理と貯蔵のための集中管理施設について、ベトナムからは緊急時の対応について、それぞれ報告がなされた。ワークショップ開催期間中、日本、オーストラリアによる放射線安全や廃棄物管理のポスターセッションが行われた。

また放射線防護と放射性廃棄物管理、放射性廃棄物施設の立地、放射線安全に関する諸問題に係わる現状を確認し、議論した。さらに円卓討議を行い、IAEAのアジア原子力安全ネットワーク (ANSN) やアジア地域協力協定 (RCA) など、他の国際協力プログラムと協調していくことを確認した。その結果、今後のプロジェクトを遂行して行くにあたり、各国の共通の基盤が醸成された。



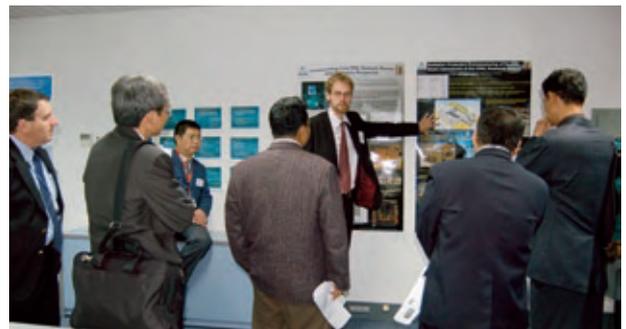
ワークショップの様子

なお、オーストラリア原子力科学技術機構 (ANSTO) の低レベル放射性廃棄物の中間貯蔵施設やOPAL炉、また、デコミッショニング作業中の施設であるHIFAR炉及びMOATA炉などの施設への訪問を行った。



低レベル放射性廃棄物ドラム缶

左：コンクリート（非圧縮） 中：金属等（非圧縮）  
右：ソフト固体（手袋、プラスチック、衣類）（圧縮）  
オーストラリアでは、減容のための燃焼は行わない。



ポスターセッションの様子

人材養成 ワークショップ（バングラデシュ・ダッカ 2008年11月）

■アジア原子力教育訓練プログラム（ANTEP）のウェブサイト開設

人材養成プロジェクトでは、各国における人材養成のプログラムに対するニーズと、各国が提供可能なプログラムに関するアンケート調査を行い、それらを効果的にマッチングさせるための「アジア原子力教育訓練プログラム（ANTEP）」を推進する活動を進めている。



ワークショップ参加者

人材養成ワークショップが、バングラデシュのダッカにおいて、11月2日～4日の3日間に渡り開催された。ブーヤン原子力委員長出席の下、バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの9カ国及びIAEAから、計15名が参加した。

ワークショップでは、各国が現在必要としている人材養成に係わる課題（ニーズ）について、その背景を明らかにし、ANTEPをより有効に利用していくことについての議論を行った。初日はオープンセミナーを開催し、バングラデシュ、日本、ベトナムより人材養成についての講演を行い、バングラデシュの官庁・大学や研究所から約100名が参加した。



オープンセミナーの様子

今回のアンケート調査の結果、各国において現在必要とされているニーズは広範囲な分野に及んでいるが、ほぼ9割の65件の課題が文部科学省の原子力研究交流制度に関連する課題として示されていることが報告された<sup>※</sup>。今後より効果的にANTEPを構築していく上で、各国のニーズはそれぞれの国の原子力政策を踏まえて十分に詰めることが必要であるとの共通認識が形成された。

※ 平成20年度の文部科学省の原子力研究交流制度には65件の課題に対し22件の応募があった。



ワークショップの様子

また、今年度リニューアルするANTEPのウェブサイトのデモンストレーションを行った。また、IAEAよりANENT（アジア原子力技術教育ネットワーク）の担当官花光氏の出席を得て今後のIAEAとの協力についても議論を行った。



シャバル研究所の見学

工業利用 電子加速器利用 ワークショップ（中国・上海 2008年10月）

■注目される農作物の成長促進剤の開発

電子加速器利用プロジェクトは、天然高分子に対して放射線加工を施し、より価値の大きな物質を創出することを目的としている。

IAEA / RCAとの協力のもとに、電子加速器利用ワークショップが、中国の上海において、10月27日～31日の5日間に渡り開催された。バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの8カ国及びRCA加盟国であるインド、パキスタン、スリランカから、計18名が参加した。8回目を迎える今回のワークショップでは、(1)ユーザーのニーズに応える放射線加工による製品の研究開発の現状レビュー、(2)エンドユーザーとの提携を含めた実用化のための戦略、(3)参加国間で共通の目標を達成するために可能な協力と研究開発の推進、(4)2009年から2011年の実施計画の策定、について議論を行った。



ワークショップの様子

ワークショップの初日にはオープンセミナーを開催し、各国における天然高分子放射線加工の研究や加速器利用の現状などが報告され、産業界、大学、研究機関から約90名の参加があった。オープンセミナー開催中、展示会も開催され、各国からポスターや実用化された製品・試作品が展示された。

天然高分子の放射線加工による植物成長促進剤の開発

天然高分子の放射線加工を利用した植物成長促進剤をお茶、コーヒー、米、サトウキビなどに使用し、その成長促進効果についての研究が各国で行われている。マレーシアで放射線分解したキトサンを用いた成長促進剤の大規模なフィールド試験を10月に

開始するなど、各国で試験が進んでいる。

また本年8月にインドネシア原子力庁（BATAN）の照射施設で共通試料としてのオリゴキトサンを製造し、この製品を用いて統一した実験手順を基に各国においてフィールド試験を実施する。今後検討を重ね、製品の実用化を目指す。

超吸水性ハイドロゲルの研究

澱粉などの天然高分子の放射線架橋<sup>\*1</sup>またはグラフト重合<sup>\*2</sup>を利用した超吸水性ハイドロゲルは、生分解性であるため環境に負荷を与えず乾燥地域の土壌の水分維持に有効であることから、FNCAではベトナム、日本などを中心に実用化に向けた研究を進めている。

- ※1 放射線架橋：放射線照射により、高分子物質の分子構造の分子間に新たな結合を誘起し、網目構造（ネットワーク構造）を形成させる技術のこと
- ※2 グラフト重合：電子線やγ線を使って素材にラジカル（反応活性種）をつくり、そこへ機能を持った別の分子を重合させること

創傷被覆用、その他医療用ハイドロゲルの研究

天然高分子の放射線架橋により、韓国と中国は創傷被覆材を、マレーシアでは美容のためのフェースマスクをすでに実用化しており、市場に流通している。この実用化に至った経験と情報は、他国においても非常に有益であり、今後新たな利用に向けて引き続き情報の交換を行っていくことが確認された。



上海シンクロトロン放射光施設の訪問

## 第9回コーディネーター会合（2008年3月）

2008年3月10日～11日の2日間、内閣府・原子力委員会主催、文部科学省後援による第9回FNCAコーディネーター会合が東京（三田共用会議所）で開催された。オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの10カ国のコーディネーターが参加するとともに、IAEAがオブザーバーとして参加した。



第9回コーディネーター会合参加者

本会合では、次の主要議題に沿って議論が行われた。

### 【主要議題】

- ①原子力の平和利用に関する8分野11プロジェクトの活動報告、評価及び今後の計画
- ②第8回FNCA大臣級会合（2007年12月）の報告及び「持続的発展に向けた原子力エネルギーの平和利用に関するアジア原子力協力フォーラム（FNCA）共同コミュニケ」のフォローアップ
- ③第1回「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」（2007年10月）の報告及び今後の計画
- ④FNCAとIAEA/RCAとの活動協力について
- ⑤FNCAの今後の課題について

①では各プロジェクトのリーダーより主要な結果が報告され、討議が行われた。

②では、第8回大臣級会合の結果及び同会合で发出された共同コミュニケのフォローアップの現状について事務局より報告が行われた。また、2008年の第9回大臣級会合において、二酸化炭素排出の削減やエネルギーの持続性の観点から民生原子力発電の導入に関する政策対話を行うことが合意された。

③では第1回検討パネルのフォローアップとして、原子力発電分野におけるFNCA人材育成データベースの作成及びそのスケジュール等が、杉本第1回パネル議長より提案され合意された。さらに、今後の計画として、2008年の第2回検討パネルのテーマとして「原子力安全の基盤整備」が事務局より提案され、承認された。



会合の様子

⑤では、参加国が新規プロジェクトの立案や既存プロジェクトの評価を行う際に、町コーディネーターが第8回大臣級会合（2007年12月）で提示したFNCAの5つの課題（①地域及び各国の優先事項との連関、②エンドユーザーとの連携の強化、③持続的な財政支援の確保、④他の地域活動との協力と活動の重複の最小化、⑤原子力発電導入に係わる人材養成の支援の必要性）を考慮することが合意された。

## 第2回 アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル（2008年9月）

2008年9月1日～2日の2日間、内閣府・原子力委員会主催、原子力安全委員会の後援による、第2回「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」\*が東京（三田共用会議所）で開催された。



会合の様子

本検討パネルでは、早田原子力安全委員会委員を議長とし、FNCA 参加国のうちバングラデシュ、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィ

リピン、タイ、ベトナムの9カ国から原子力政策及び原子力安全規制に関わる上級行政官や有識者、さらにIAEAの安全情報官の出席を得て、「原子力発電にかかわる安全確保のための基盤整備について」をテーマに議論が行われた。

議論の結果、安全確保のための基盤整備を効果的かつ効率的に行うには国際協力により知見と経験を共有することが効果的であることを確認した。また、FNCAとIAEAのアジア原子力安全ネットワーク（ANSN）や東南アジア諸国連合（ASEAN）+3（日本、中国、韓国）の原子力安全サブネットワーク等の他の国際枠組みとの連携を促進していく必要があることが指摘された。

\* FNCAでは、近年のアジアにおける原子力発電導入の動きを受け、5年前より、地域における原子力発電の役割や原子力発電の推進に関する協力について検討するパネルを開催している。第1フェーズである「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」を3年間開催後、本検討パネルを標題とした第2フェーズを2007年に開始し、2008年が最終年となる。



第2回パネル会合参加者

## アジア原子力協力フォーラム（FNCA）とは —日本が主導する原子力平和利用協力の活動—

### 【名称】

アジア原子力協力フォーラム

(FNCA : Forum for Nuclear Cooperation in Asia)

### 【参加国】

オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの計10カ国（IAEAがオブザーバー参加）

### FNCA 大臣級会合

原子力を所管する大臣級代表による会合と上級行政官による会合で構成。協力推進の政策や、原子力政策について討議。

### コーディネーター会合

各国1名のコーディネーターにより、協力プロジェクトの成果と評価、推進方策、新提案、ならびにFNCAの運営全般に関わることを審議する。

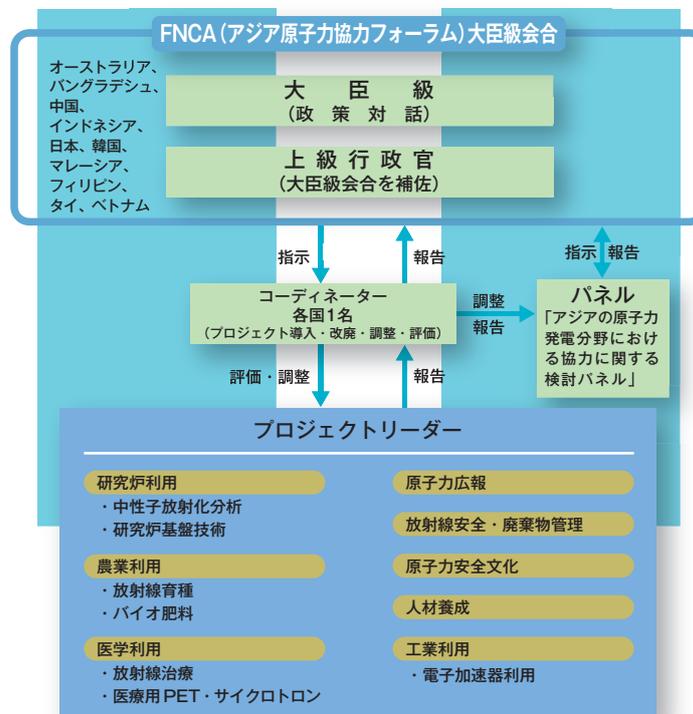
### パネル会合

原子力エネルギーの役割を検討・評価。原子力発電の導入に伴う課題も検討。2007年度から2年間、「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」を設置。

### 個別プロジェクトについての協力活動

重要な8分野で目的を明確にした11プロジェクトを協力して実施。FNCA参加各国が持ち回りでワークショップを開催し活動の成果と計画を討議。

## アジア原子力協力フォーラム（FNCA）の構成



連絡先：財団法人 原子力安全研究協会 国際研究部

住所：105-0004 東京都港区新橋5丁目18番7号 TEL: 03-5470-1983 FAX: 03-5470-1991

FNCA ホームページ <http://www.fnca.mext.go.jp/>

このニュースレターは文部科学省の委託に基づき（財）原子力安全研究協会が発行したものです。